

People 5.1 2005

茨城県内の合併状況	2
筑西市消防団が発足	4
筑西あらかると	6
お知らせ	10
お願い、飼い主さん	16

受け継がれる伝統の舞

小粟内外大神宮太々神楽

4月17日、満開の桜が咲き誇るなかで、小粟内外大神宮の春の例祭が行われ、太々神楽（県指定無形民俗文化財）が奉納されました。

この太々神楽は、寛延4年（1751）、山城国（現在の京都府）愛宕郡三嶋神宮宮司らによって、当時内外大神宮の宮司だった小粟山城守宜政に伝えられたのが始まりとされ、以来約250年受け継がれる伝統の神楽です。



願うは五穀豊穡、無病息災
この日の内外大神宮境内には、伝統の舞を一目見ようと市内外から大勢の人が訪れ、大太鼓と大鼓、笛で奏でられるお囃子にあわせて神楽師が舞い始めると、カメラをかまえてその姿を収めようとする人たちの姿も見えました。また、五穀豊穡を祈願して舞台から餅や菓子がかかると、集まった地域の子どもたちも大喜び。我先にと手を伸ばしていました。